

平成 21 年度臨時（第 4 回）理事会議事録

日 時： 平成 22 年 1 月 23 日（土） 13：00～16：30

場 所： 東京夢の島マリーナ 2 階 会議室

出席理事：（敬称略、順不同）

山崎達光、秋山雄治、河野博文、西岡一正、植松真（委任：山崎達光）、前田彰一、青山篤、児玉萬平、斉藤渉、鈴木國央、小山泰彦、松原宏之、山田敏雄、倭千鶴子（委任：前田彰一）、庄司一夫、豊伸吾（委任：前田彰一）、小山利男、外山昌一（委任：山崎達光）、柴沼克己、坂谷定生、山下記誉、吉田豊、宮崎史康、中村公俊、奥村文浩（委任：前田彰一）、吉留容子、金井寿雄

以上 27 名、内委任状 5 名

出席監事：高木伸学、浪川宏、栗原博

以上 3 名

オブザーバー：増田開ルール委員長、末木創造 ODC 計測委員長、鈴木保夫外洋総務委員長、中村健次オリンピック特別委員会委員、斉藤威指導者副委員長、豊崎謙広報委員、小屋忠史外洋東関東代表、宇都光伸外洋南九州会長

議事の経過及び結果

（定足数の確認）

理事 27 名、出席者 27 名（内、委任状 5 名）により、寄附行為第 29 条に基づく定足数を充足しており、本理事会は成立した。

（議長による開会宣言）

寄附行為第 19 条に基づいて、山崎達光が議長となり、平成 21 年度臨時（第 4 回）理事会の開会を宣言し、議事進行を前田彰一専務理事に委任した。

（議事録署名人）

本理事会の議事録署名人として、議長指名により、山下記誉、中村公俊の両理事が任命された。

（山崎会長挨拶）

山崎会長より、本会議において来年度の事業計画と予算（案）がメインの協議案件になるので、あらゆる角度からの議論とスムーズな議事進行にご協力をお願いしたいとの挨拶があった。

<審議事項>

1) 平成 21 年度評議員の変更について

前田専務理事より資料に基づき、神奈川県セーリング連盟の末木創造氏と外洋東京湾の大村雅一氏が新評議員に変更された旨説明があり、承認された。

2) JSAF 表彰規程および表彰候補者について

庄司総務委員長より資料に基づき、定期表彰候補者の功労賞：中山明氏（京都府セーリング連盟推薦）、瀬川洗城氏（外洋内海推薦）、小川勝氏（千葉県セーリング連

盟推薦)以上3名/優秀指導者賞:田中耕司氏(東京都ヨット連盟推薦)以上1名/優秀競技者賞:原田龍之介氏・吉田雄悟氏・富澤慎氏・若林友世氏・村上仁美氏(オリンピック特別委員会推薦)・木山典彦氏・稲田健一氏(日本スナイプ協会推薦)・佐藤浩章氏・村岸泰明氏(日本テザー協会推薦)・西岡一正氏・植松眞氏(外洋総務委員会推薦)以上11名/感謝状:白幡寛氏(日本A級ディンギー協会推薦)・山辺忠厚氏・井上洋一郎氏・松山和興氏・大谷たかを氏・山下大輔氏・鈴木國央氏・本吉讓治氏(JSAF常任委員会推薦)以上8名、合計23名が承認された。

児玉常務理事より、タイムリーに対応できるような感謝状については、理事会をまたずに総務委員会で検討していただきたいとの意見があった。

<協議事項>

1) 平成21年度第2次補正予算(案)について

斉藤財政委員長より資料に基づき、平成21年度第2次補正予算(案)の一般会計は、本年度第1次補正予算策定(昨年5月理事会)後に確定した収支および見込金額が変更となる収支を反映するため、2次補正予算を策定する。収入は、177,584千円(対1次補正予算比17,994千円増)、支出は171,743千円増、当期収支差額は、5,981千円(同251千円)である。オリンピック特別会計についても第1次補正予算策定後に確定した収支を反映するとともに、スポーツ振興基金に対し増額申請中のため、2次補正予算を策定する。収入は、170,766千円(対第1次補正予算費32,672千円増)支出は、164,988千円(同16,963千円増)である旨説明があった。

山田オリンピック特別委員長よりオリンピック特別会計について、スポーツ振興基金に増額申請中であり3月に決定されるとの補足説明があり、次回理事会の審議事項となった。

2) 平成22年度事業計画(案)・予算(案)について

前田専務理事より資料に基づき、平成22年度事業計画(案)の実行計画(10項目)と3つの普及(メンバーの増強/組織の確立/財政健全化)・文化(指導者の育成/広報活動/環境活動/特徴あるレース)・勝利(ロンドンオリンピックメダル獲得/ジュニア・ユース競技力向上/千葉国体・山口リハーサル国体成功/NTC活用)に関する基本方針について説明があった。

青山常務理事より別途資料に基づき、来年度の環境委員会事業計画(案)の説明と海の絵画コンテストの活動報告について説明があった。

児玉常務理事より昨年会費を値上げしたので、メンバー推移を含めた分析をする必要があるとの発言があった。

前田専務理事よりメンバー数の減少を心配していたが、各団体の努力により昨年度に比べ3%減の状態であるとの発言があった。

斉藤財政委員長より資料に基づき、平成22年度予算(案)の一般会計は、収入157,582千円(対平成21年度第1次補正予算案比2,006千円減)、支出は156,028千円(同2,168千円減)、当期収支差額は1,554千円(同4,

174千円減)である。オリンピック特別会計についての収入は、166,368千円(対今年度第1次補正予算比28,274千円増)、支出は172,860千円(同24,834千円増)、当期収支差額は▲6,491千円(同3,439千円減)である。また、新規事業として、スポーツ振興基金によるチーム招聘事業、toto助成事業による調査研究等を計画し、決定については、来年度4月頃になる旨説明があった。

秋山副会長より、メンバー増強や事業開発による増収に関してさらに検討すべき、またバジテスト改定に伴う増収も見込むなどの意見が出された。

普及委員会やジュニア・アカデミー委員会の予算については、申請中であり3月初めに日本財団より内示があるとの補足説明があり、次回理事会の審議事項となった。

3) 理事会・評議員会運営ガイダンスについて

庄司総務委員長より資料に基づき、会議運営ガイダンス並びに委員会運営ガイダンスの改訂事項を検討し、理事会および委員会のガイダンスは修正案および評議員会については新規に提案したとの説明があった。引き続き総務委員会で検討していく。

秋山副会長より、理事会の議長は会長であり、議事進行を専務理事に委ねているとのコメントがあった。

4) JSAF 規程 (RRS 関連) の改定について

増田ルール委員長より現行の当連盟規程には、(1)2009年改定のISAF規定20(広告規定)と整合していない、(2)アデンダムQの使用に関するJSAF規程が無い為に国内のメダル・レースでアデンダムQを適用できないなどの問題があり、これらの点を含め現行のセーリング競技規則並びにISAF規定との整合を図り、また、JSAF規程の内容には変更が無いものの、RRSやISAF規定の規則番号の変更への対応のみの改訂が今後必要と予測される手続きについての2点を提案したい旨説明があった。新たに追加される改定案、即ち規則68および規則86.3(メダルレースなど)に関する規程などについて質疑があった。

<報告事項>

(1) 公益法人改革検討プロジェクトについて

庄司総務委員長から資料に基づき、公益法人改革3法施行への対応について報告がなされた。内容については、移行時期をいつにするのか、寄付行為を定款へ作り直すにあたっては1回方式で、理事会への出席が可能な評議員の選定方法をどうするのか、公益性の説明責任を国体やオリンピックへの参加で行う、移行申請準備段階から精査した上で外部コンサルを活用する可能性などについて報告された。

また、山田オリ特委員長からは、JSAFの選手強化事業に公益性があるか否か説明の必要性がある。斉藤財政委員長からは、公益事業と収益事業を分ける必要があるとの意見が出された。

(2) 国際競技規則の一部改定について

増田ルール委員長から資料に基づき、セーリング競技規則の一部改定について報告がなされた。選手の戦術に関わる部分での改定があるので、広く周知をとのこと。

(3) 上告否認 JODA ナショナルチーム選考会について

増田ルール委員長から資料に基づき、2010年 JODA ナショナルチーム選考会における上告否認についての承認願いがあり、承認された。

(4) 最高審判委員のプロテスト委員招聘について

増田ルール委員長から資料に基づき、大谷最高審判委員会委員を2010年 JSAF ナショナルチーム選考レースのプロテスト委員に招聘できるよう承認依頼があり、承認された。

(5) レースの共同主催・公認・後援状況について

松原理事から資料に基づき、レースの共同主催・公認・後援状況についての報告がなされた。宮崎理事から資料が読みにくいので冒頭に年度タイトルをつけて欲しいとの意見があった。最終ページに添付される一覧表を参照して欲しいと返答があった。

(6) バッジテスト規則の一部改定

小山指導者委員長から資料に基づき、バッジテスト実施基準の初級（6級）の検定・認定料の改定案が報告された。宮崎理事から問題については小学生も大人も同じ内容なのか、主催団体に制限があるのかとの質問があり、小山委員長から問題は統一で小学生でも十分60点以上は取れる問題であり、主催団体は加盟団体でも特別加盟団体でも問題ないとの回答があった。また、新しい問題が出来ているので、お問い合わせをいただければ、配布できる状態である。特別加盟団体からもご了解をいただき配布することを考えている旨発言があった。

(7) ロンドンオリンピック選手選考について

山田オリンピック特別委員長から資料に基づき、ロンドンオリンピック日本代表候補選手選考について説明がなされた。代表候補が内定された後、一定基準により変更の可能性がある選考方法であり、2月の選考レースまでに公示したい旨報告があり、承認された。

(8) ロンドンオリンピック募金について

山田オリンピック特別委員長から資料に基づき、事業仕分けの影響もあり、資金難に苦しむロンドンオリンピックを目指すナショナルチームの海外遠征活動に対する支援のお願いが説明された。西岡副会長から外部へ寄付のお願いをするにあたっては、まずは会員間で努力をすべきである旨が説明され、山田委員長から支援の内容については、J-Sailing を通じて行う旨が報告された。

(9) 国際VTF現状報告について

児玉常務理事から資料に基づき、国際 VHF 船舶局開局の概要について説明がなされた。機器が2万～3万円と安価になった。詳しくは J-Sailing 2月号に掲載される旨が報告された。

(10) 東アジア IRC 計測セミナーの開催について

吉田理事から資料に基づき、本年10月に東アジア IRC 計測講習会（東アジア）in Japan 開催を IRC と JSAF が共同開催したいとのお願いがあり、承認された。

(11) ジュニア・アカデミー委員会組織について

中村ジュニア・アカデミー委員長から資料に基づき、平成21～22年度におけるジュニア・アカデミー委員会組織についての説明があり、承認された。

(12) 平成21年12月予算管理報告について

斉藤財政委員長から資料に基づき、平成21年12月予算管理が報告された。

(13) 平成21年12月メンバー登録報告について

松原理事から平成21年度メンバー登録者数（2010.1.18現在）が報告された。河野副会長から3%のメンバー減と登録料値上げの因果関係について説明する材料が必要との意見があった。

(14) 平成21年度臨時（第3回）理事会議事録について

前田専務理事から平成21年度臨時（第3回）理事会議事録を参照との説明があった。

(15) 平成22年度 JSAF 行事予定案について

前田専務理事から平成22年度 JSAF 行事予定案が提示された。11月はアジア大会とのスケジュール重なるとの指摘があったが、11月13日または20日いずれにしても重なることで中世は困難との話がでた。柴沼理事より、国際委員会ではなく個人的な意見であるが、中国で開催されるアジア大会の際にアジアセーリング連盟の総会が予定されているが、会長・副会長は参加できないか、との質問があった。河野副会長より、都合が付けば自腹で参加するが現状では不明と返答があった。

(16) その他

前田専務より、理事会後の新年会、次回理事会および評議員会スケジュールについて説明があった。また名誉総裁高円宮妃殿下の原作・監修の絵本「龍の子ケンとリン」の紹介があった。映画「海の金魚」の上映スケジュールも紹介。

平成 21 年度臨時（第 4 回）理事会は、上記の通り議決ならびに承認されたことを確認し、議事録署名人は以下に記名捺印する。

平成 22 年 1 月 23 日

議 長 会 長 山 崎 達 光

議事録署名人 理 事 山 下 記 誉

議事録署名人 理 事 中 村 公 俊